

令和元年度第3回寝屋川市男女共同参画審議会要約会議録

日時:令和元年11月27日(水)午前10時～正午

場所:寝屋川市役所議会棟4階 第一委員会室

出席委員:大東委員長、森川委員、岡委員、久野委員、星野委員、吉永委員、金谷委員、福田委員、木下委員

事務局:三宅人・ふれあい部長、阪本人権文化課長、吉田人権文化課副係長、出口、大口

●事務局 次第1「男女共同参画審議会委員の紹介」に入らせていただきます。本日、御出席いただいている方を、審議会委員名簿の順に御紹介させていただきますので、一言、自己紹介をよろしくお願いいたします。

[委員の皆さんの自己紹介]

●事務局 次第2「男女共同参画審議会委員長及び副委員長の選出」ですが、選出に当たり、仮議長を三宅人・ふれあい部長が務めさせていただきます。

●仮議長 委員長、副委員長が選出されるまでの間、私が仮議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは、次第2「男女共同参画審議会委員長及び副委員長の選出」でございます。選出の方法などにつきまして御意見、御提案がございましたら、お願いしたいと存じます。

●委員 推薦ということで、いかがでしょうか。

●仮議長 ただいま、推薦という御意見をいただきました。ほかにございませんか。

[意見なし]

●仮議長 では、委員長の推薦からお願いします。委員の皆様どなたかございませんか。

●委員 これまで委員長をしていただきました大東委員に、引き続き委員長をしていただいてはどうでしょうか。

●仮議長 ただいま、大東委員にお願いしてはという意見がございました。ほかにございませんでしょうか。

[意見なし]

●仮議長 ございませんので、大東委員を委員長に推薦したいと思います。よろしければ、拍手をもって御承認、お願いします。

[拍手]

●仮議長 委員の皆様方の拍手をもちまして承認となりましたので、委員長は大東委員に決定させていただきます。続きまして、副委員長の選出ですが、委員長と同様に推薦でよろしいでしょうか。それでは、副委員長の推薦をお願いいたします。

●委員 副委員長も引き続き林田委員をお願いしてはどうでしょうか。

●仮議長 ただいま、林田委員をお願いしてはと意見がございました。ほかにございませんか。

[意見なし]

●仮議長 副委員長に、林田委員の推薦がございましたが、本日欠席されておりますので、後日事務局より、林田委員に確認の上、次回の審議会で報告させていただくということによろしいでしょうか。

[意見なし]

それでは、次第の2は以上で終了とさせていただきます。今後の議事進行につきましては、大東委員長をお願いいたしまして、仮議長を降壇させていただきます。よろしく願いいたします。

●事務局 それでは大東委員長、就任の御挨拶をよろしく願いいたします。

[委員長のあいさつ]

●事務局 ただいまより、令和元年度第3回寝屋川市男女共同参画審議会を開催させていただきます。本日、林田委員、藤田委員、濱田委員、細谷委員は欠席との御報告をいただいております。よって、委員13名中9名の御出席をいただいておりますので、男女共同参画審議会規則第5条第2項の規定により、審議会は成立していることを御報告いたします。次に、審議に入ります前に、審議会の公開に関して御説明させていただきます。本審議会につきましては、市民にできる限り情報を開示することが重要であるとの観点から、原則として公開で臨み、傍聴を予定しております。また、審議いただいた内容につきましては、議事録を作成し、その内容と発言者名をホームページで公開する予定としておりますので、あらかじめ御了承ください。

●委員長 それでは、ただいま事務局から御説明がありましたように、審議会は公開し傍聴ができること、また議事録をホームページで公開することの説明がありました。御了承いただけますでしょうか。

[意見なし]

●事務局 本日は、傍聴の申請者が2名おられますが、委員長にお諮りのほう、お願いしたいと思います。

●委員長 皆様、よろしいでしょうか。それでは、お入りください。

それでは、次第3でございますが、「男女共同参画に関する市民意識調査等の進捗状況」を議題といたします。事務局より御説明をお願いいたします。

●事務局 それでは、次第3「男女共同参画に関する市民意識調査等の進捗状況」の説明をさせていただきます。初めに資料の確認ですが、資料1-1が「小学生」、1-2が「中学生」、1-3が「高校生」、1-4が「大学生」の調査票となっております。1-5が「市民意識調査結果の単純集計票」、1-6が「事業所調査結果の単純集計票」となっておりますので御確認下さい。なお、資料1-5と1-6の参考資料としまして、「市民意識調査票」と「事業所調査票」を御手元にお配りしておりますので、あわせて御確認下さい。

まず、資料1-1から1-4の学生の調査票につきましては、前回の審議会でもいただいた委員の皆様からの御意見や、またLGBT当事者の方等からの助言を踏まえ、修正を行いました。そして、教育委員会と最終調整を行った上で、今回お配りしている内容を確定版とさせていただきます。なお、「小学生」と「中学生」につきましては、10月初旬から調査を実施し、「高校生」と「大学生」につきましては、10月中旬から調査を実施しておりましたが、現在調査票の回収は全て終わっており、集計を依頼しているところでございます。それでは、前回からの修正箇所について、資料1-1から説明させていただきます。まず1ページ、問2の性別の質問ですが、以前は「3. その他」としておりましたが、小・中学校校長会から表現を変えてほしいという御意見を受け、「その他」を「1・2にあてはまらない」に変更しました。次に、問5の学校生活についての質問ですが、以前は「男子のほうが〇〇」、「女子のほうが〇〇」という質問文に対して、「そう思う」や「そう思わない」を答えるものでしたが、こちらも小・中学校校長会から、質問文で先入観をもってしまう可能性があるため表現を変えてほしいという御意見を受け、質問文には男子、女子と表記せず、選択肢で「男子の方が向いている」、「女子の方が向いている」を選ぶように変更しました。次に2ページ、問6「あなたは手伝いや、身の回りのことをしていますか。」という質問ですが、小・中学校校長会から御意見をいただき、わかりやすいよう注釈として、「⑧はきょうだいがいる人だけ〇をつけてください。」という文言を追加しました。次に3ページ、問8「あなたは、「男だから〇〇」や「女だから〇〇」のように言われますか。」という質問で、「言われる」と回答した人について、その下の枝質問で、「どんなことで言われたか」、「言われてどんな気持ちでしたか」、「誰に言われたか」の順番で聞く形となっておりますが、こちらも小・中学校校長会から御意見をいただき、「だれに言われたか」、「どんなことで言われたか」、「言われてどんな気持ちでしたか」に順番を入れかえました。次に、デートDVに関する質問がありましたが、教育委員会との調整により、小学生の調査票からは全て削除しました。4ページ、問9「あなたは、自分が今の性別に生まれたことをどう思いますか。」という質問で、前は「よかった」、「反対ならよかった」、「どちらとも言えない」の3択でしたが、心の性

について聞く質問として、「なんとも思わない」、「しっくりこないと思っている」、「違う性別ならよかったと思う」の選択肢を追加して5択とし、あわせて回答につきましても、「○は1つ」から「あてはまるものすべてに○」に変更し、答えやすくしました。こちらの質問に関しては、LGBT当事者の方2名と、委員長にも相談させていただき、助言をいただきました。また、枝質問として問9で「そう答えた理由を書く記述欄」を設けておりましたが、削除いたしました。以上で、「小学生の調査票」についての説明を終わります。続きまして、資料1-2「中学生の調査票」についてですが、基本的には「小学生の調査票」と同じ修正となっておりますので、異なる変更点についてのみ説明いたします。まず4ページ、問9のデートDVに関する質問ですが、教育委員会との調整の結果、まず質問文の「あなたは、次のような男女の関係についてどう思いますか。」としていた部分を、「あなたに、付き合っている相手がいると仮定して、次のような相手との関係についてどう思いますか。」に文言修正しました。次に、選択肢の「変だと思う」、「変だと思わない」の2択から、「問題があると思う」、「どちらかというとも問題があると思う」、「どちらかというとも問題がないと思う」、「問題がないと思う」、「わからない」の5択に変更しました。また「②相手が何をしているか気になって、ひんぱんに電話やメール（LINEなども含む。）で確かめる」を、メールよりLINEのほうが今の時代になじむという理由で、「②相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる」に文言修正しました。⑥も同様に、メールという表記をLINEに変更しています。次に前回の③では、「たたいたり、けったり、髪を引っばる」としていましたが、「髪を引っばる」という表現はショッキングな印象が強いのではないかということで削除し、さらに括弧書きで「たたくふりや、けるふりも含む」を追記しました。また、③に「大声でどなる」を追加しました。次に、⑧の「自分のことをいつも優先してほしいと言う」を削除しました。そして「⑨相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわると」、「⑩デート代をいつもすべて支払わせる」の2つの質問は、教育委員会から中学生にはそぐわないという御意見をいただき、調査票から削除となりました。「高校生」、「大学生」の調査票については、据え置きとしております。以上で、「中学生の調査票」について説明を終わります。続きまして、資料1-3「高校生の調査票」についてですが、こちらも小・中学生と異なる変更点についてのみ説明いたします。まず4ページ、問9のデートDVに関する質問ですが、こちらの質問文につきましても、前回「あなたは、次のような男女の関係についてどう思いますか」でありましたが「あなたは、次のような付き合っている相手との関係についてどう思いますか。」に変更しました。次に5ページ、問12ですが、前回は「あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的思考（同性愛など）に悩んだことがありますか」という質問でしたが、こちらも前述のLGBT当事者の方から助言をいただき「あなたは今までに自分の性別のことや恋愛対象に悩んだことがありますか」に文言修正しました。また、枝質問には「差し支えなければ」という文言を追加しました。そして、問13「あなたはLGBT（性的少数者）という言葉を知っていますか」という質問についても、当事者の方からの助言により、括弧書きの「性的少

数者」を削除し注釈部分により詳しい説明文を追加することで、LGBTへの理解を深めてもらえるような質問にしました。以上で「高校生の調査票」についての説明を終わります。資料1-4「大学生の調査票」につきましては「高校生の調査票」と同じ修正となっておりますので、説明は省略いたします。続きまして、資料1-5をご覧ください。こちらは、先日実施しました「市民意識調査結果の単純集計表」でございます。こちらは住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の市民3,000人に調査票を送付し、回収状況は1,099で、回収率は36.6%となっております。回答内容につきましては、ご覧のとおりでございますが、これから委員の皆様にも御協力をいただきつつクロス集計などを行い、詳しい分析を行ってまいりたいと考えておりますので、集計方法などについて御意見いただければと思います。続きまして資料1-6は「市民意識調査」と同時に実施をいたしました「事業所調査結果の単純集計表」でございます。こちらは、事業所母集団データベースから無作為抽出した従業員10名以上の市内事業所1000社に調査票を送付し、回収状況は357で、回収率は35.7%となっております。こちらにつきましても、これからクロス集計などを行い、詳しい分析を行ってまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

●委員長　それでは、ただいまの説明につきまして御発言がございましたらよろしくお願いたします。少し補足をさせていただきますと、10年前に策定した第4期のねやがわ男女共同参画プランをもとに、新たに次期ねやがわ男女共同参画プランを策定いたします。そのための資料として、10年前の調査と同様、今回も事業や市民の意識等のさまざまな変化について見るために調査を実施しております。前回の調査と基本的には質問項目を変えないようにしておりますので、今後、比較をしてどう推移したか、事務局から提示されると思います。加えて、初めて「学生の調査」を教育現場で実施するにあたって、教育委員会等と打合せが必要となり、先ほどの御説明になりました。打合せ等の影響で「市民意識調査」と「事業所調査」を行う時期がずれたところでございます。いずれにしても、今回は来年度の「次期ねやがわ男女共同参画プラン」を策定するための資料として調査を行っております。いま結果だけを見て、どこに着目するのかわからないかと思いますが、何か気になるところ等がありましたら、御意見をお願いいたします。加えて、今回のデータについて、私も業者と打合せをさせていただきます、集計結果もエクセルデータで頂いております。委員の中でエクセルデータの処理スキルを持っている方がいらっしゃいますので、またご協力いただきたいと思っております。

●委員　「学生の調査」は、教育委員会等の御意見等でかなり配慮されたと思っておりますが、1ヶ月という実施期間や回収状況が適正なものなのか、お聞かせいただきたいです。

●事務局　調査期間につきましても、教育委員会等と調整したうえで決定しました。回収状況につきましては、小・中・高・大あわせて1000人を対象としており、小・中・高・大それぞれ250名ずつとなっております。回収状況が、小学生252人、中学生220人、高校生250人、大学生が247人となっております、あわせて969人となっております。現在、委託業者が集計を行っておりまして、12月中には単純集計等が提出されると、報告を受けておりま

す。単純集計が届きましたら、委員の皆様にも送付させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

●委員 市民と事業所の回収率は、ほかのアンケートと比べて高いほうですか。

●事務局 市民3,000人と、事業所1,000社につきまして、回答率が市民36.6%と事業所35.7%です。委託業者によると、事業所の回収率は、他の市よりやや高いという報告を受けております。

●委員 簡単に答えられる調査票の内容ではないですし、時間も要する中で回答していただいておりますからね。

●委員 市民意識調査で、1,099人の方が回答していただきましたが、一般の市民3,000人に対して、女性が622人、男性が471人ということで、パーセンテージに差があります。事業所でいうと、医療関係や福祉関係のエヌ数が多いですが、送付した方の割合はどんなもののでしょうか。それとお送りした数で返ってきたパーセンテージはどのようなのでしょうか。

●事務局 市民に関しましては、女性男性の割合等は前回の調査結果とほとんど変わりありません。お送りしたのは、女性1,500人、男性1,500人で、それに対してこの割合となっております。事業所につきましては、総務省が管理するデータベースから業種ごとに調べて同等の数を抽出いたしまして、実態調査として1,000事業所に郵送しました。

●委員 前回からの比較という意味では、そんなにパーセンテージに影響はないということですか。

●事務局 そのとおりでございます。

●委員長 前回は市民意識調査のみでしたが、今回は女性活躍推進ということもあって、雇用する側の意識を聞く必要があるのではないかとということで、事業所への調査も行っております。単純集計結果の詳細について、事務局から説明をお願いします。

●事務局 まず、資料1-5の「市民意識調査」ですが、問8、「男は仕事、女は家庭」という役割分担についてあなたはどう思いますか」という問いで、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計が、16.7%となっております。これは、10年前の32.4%から半減しており、この結果から、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識があるという回答率がとても下がっておりますので、とてもよい傾向にあると考えております。また、同等の質問で内閣府が世論調査を行っており、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計が、35%となっておりますので、比較しますと、寝屋川市の方が世論調査よりもかなり意識として高くなっていることが読み取れます。また、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」の合計が、62.5%になりますが、前回は42.5%ですので、よい傾向に上がっているということでございます。次の問9「①～⑧の考え方について、あなたはどう思いますか」でも、それぞれ①から⑧までございますが、この比率につきましては、10年前と比較すると、すべて「そう思う」の割合が低くなっており、性別役割分担意識が減少していることが読み取れます。「⑧地域の行事は男性が企画し、女性は手伝うのがよい」については、今回新規の質問となっており、9割の方が「そうは思わない」と、回答されておま

す。問 10「社会全体を見て、男女の地位はどうなっていると思いますか」につきましては、10 年前とほぼ比率は変わりません。続きまして、問 11 の言葉の認知度の調査で、「①男女共同参画社会基本法」から「⑬ふらっと ねやがわ」までございます。こちらにつきましては、新規の調査項目「②女性活躍推進法」について、「知らない」が約 5 割、「知っている」が約 1 割という調査結果になっております。前回御指摘いただきました、「SDGs」も⑥として新たに追加しました。内容については、「知らない」が約 8 割、「知っている」が約 1 割となっております。「⑩LGBT」も新規項目でございます。「内容を知っている」が約 6 割で、「知らない」が約 2 割の方が「知らない」という結果になっております。「⑪JKビジネス」も新規項目でございますが、「内容を知っている」が 40.9%、「知らない」が 25.6%という結果となっております。最後の「⑬ふらっと ねやがわ」につきましては、「内容を知っている」が 9.7%と約 1 割、「知らない」が 56.3%という結果になっております。続きまして、問 12「次の家事をする場合、あなたはどの程度担っていますか」という問いですが、「①食事の支度」から「⑩トイレの掃除」まで、各比率を記載していますが、こちらの比率につきましても、10 年前とほぼ変わりません。例えば、「食事の支度」であれば「よくする」が 55.5%、10 年前は 56.1%と、ほぼ 5 割から 6 割程度の同じような割合で、調査結果が出ております。この結果から、問 8 の「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識については、大幅に減少していますが、問 12 の「家事をする場合、あなたはどの程度担っていますか」を見ると、10 年前とほぼ変わっていないということなので、意識はあるが実際の行動が伴っていないということが、今回の調査結果で改めてわかったのではないかと考えております。続きまして、問 13、家事・育児・介護のために 1 日に使う時間について、平日と休日で分けて質問しております。育児と介護については、新規項目です。「①平日の家事」と「②休日の家事」につきましては、それぞれ「ほとんどない」から「10 時間以上」ということで比率を記載しておりますが、こちらの比率の割合につきましても、実は 10 年前とそんなに変わりません。「③平日の育児」、「④休日の育児」、「⑤平日の介護」、「⑥休日の介護」につきましては、今回新規ですので比較できませんが、それぞれ「対象者がいない」という回答が 6 割から 7 割占めております。「ほとんどない」という回答をそれぞれ見ると、育児につきましては平日 14.3%、休日 12.8%、そして介護は、平日 18.2%、休日 17.3%という割合となっております。続きまして、問 14「仕事」について「あなたの希望」、「あなたの現実」としてありますが、前回とそんなに比率の割合は変わりません。ただし、よく見ますと「地域活動」につきましては 10 年前と比べて若干意識が薄れているのかと感じております。例えば、「①あなたの希望」の「5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」が 21.2%ですが、前回は 13.6%で、増加しています。ですが、「6. 「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」をともに優先している」は、今回 7.4%、前回 14.2%なので、逆に減少しています。これらの結果から、地域活動というフレーズが入った質問項目が、前回に比べると若干減少しておりますので、地域活動の意識が 10 年前より薄れているということが読み取れます。次の問 15「男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するためには、どのよう

なことが必要だと思われますか」につきましても、前回と大きな変化はございませんが、「4. 採用賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」が今回 21.2%となっておりますが、前回は 16.9%、「5. 残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する」が今回 25.1%となっておりますが、前回は 18.9%と、比率が上がっておりますので、働き方の改善意識などが、高くなっているのではないかとということが読み取れます。続きまして、新規項目の間 16「結婚に関する考え方」で、「④同性同士の結婚が認められてもよい」について、「そう思う」というのが 47.6%という結果が出ております。そのほかにつきましても、「③結婚する際は婚姻届を出さなければならない」について、「そう思う」が 53%、「②夫婦別姓は認められない」につきまして、「そうは思はない」というのが 45.1%と、意識としては、よい結果になっているのではないかと考えております。続きまして、問 17「子育て・教育について」でございますが、こちらにつきましても、10 年前とあまり変わりません。ただ、問 17-1 で、「子育てについて、つらいと感じているのはどのような時ですか」の「5. 子どもがいるために経済的に苦しい」は、今回 22%となっておりますが、10 年前は 32.4%と非常に高い比率でした。また、「3. 子どもが病気やけがをしたとき」今回 20.2%ですが、前回 38.7%と 4 割程度を占めておりました、こちらも半分ほど率としては下がっており、理由はゲーム等が発達して外に遊びに行かないことが関係しているのではと、考えているところでございます。問 17-1 について顕著に増減があったのは、この二項目となっております。問 17-2「子育てについてだれに相談しますか」につきましては、やはり「家族・親族」が一番多い結果となりました。比率につきましては前回と変化はあまりございません。次に、問 18「男女共同参画を推進していくために、学校で行うとよいと思うものはどれですか。」は、今回新規項目といたしましてこういう結果となっております。「2. 進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力をいかせるよう配慮する」55.1%と一番高い比率となっております。その次に「1. 学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない」が 44.8%という結果となっております。続きまして問 19「あなたは、「男性の育児休業取得」について、どう思いますか。」ですが、こちらも新規項目でございます。「1. 父親が育児に参画することは当然なので、男性も育児休業を取得するほうがよい」が 49.3%でございます。それに対し、「6. 職場の雰囲気として、男性は育児休業を取得しづらいと感じる」が 48%とほぼ同一でございます。この結果から、父親が育児に参画しなければいけないと思っはいるが、職場環境が影響して、なかなか男性の育児休業取得率にはつながっていないということが見て取れるかと考えております。「7. 男性に育児休業を取得されると、仕事が回らず迷惑だ」が 6.7%、「8. 育児休業を取得すると、上司・同僚に迷惑をかけることになると思う」が 25.4%と、自分以外の社員が育児休業を取得するのは賛成だが、自分自身が取得するときには、迷惑をかけると考えてしまうということが、今回浮き彫りになったのではないかと考えております。続きまして問 19-1「あなた、もしくはあなたの配偶者・パートナーは「男性の育児休業取得」をしたことがありますか。」ですが、こちらも新規項目となっております。「取得したことがない」が 65.5%と約 7 割を占めるという結

果となりました。問 20「あなたが働いている理由は」につきましては、10年前とほぼ比率は変わりません。一番多いのが「8. 将来に備えて貯蓄するため」が27.9%、その次が「1. 働くのは当たり前だから」の27.5%です。順位もほぼ変わりません。続きまして問 20-1「あなたは、現在、仕事について悩んでいることや、不満に思うことはありますか」につきましても、前回とほぼ変わっておりません。「14. パワー・ハラスメントを受けている」につきましては、今回新規項目となっており、3.8%という結果となっております。また、「3. 仕事の分担が不公平である」、「4. 昇進や賃金など待遇面で不公平である」という質問ですが、前は「3. 仕事の分担が女性に不利である」、「4. 待遇面で女性に不利である」と女性という枕言葉をつけておりました、その影響もあるかと思いますが、3につきましては今回が13.5%、前回1.2%、4につきましても、今回20.6%、前回は4.9%とそれぞれ増加しております。続きまして問 20-2「あなたは、仕事についての悩みを、だれに相談していますか。」で、こちらも新規項目でございますが、先ほどの調査結果と同様に「家族・親族」が57.1%と最多で、次に多いのが「3. 職場の同僚」で42%となっております。続きまして問 21「配偶者・パートナーが働いていることについてどう思いますか」で、「1. 賛成し、家事・育児などを分担している」が今回52.8%ですが、前は45.3%と、よい傾向に上昇しております。以下、2から5につきましては前回とほぼ同じ調査結果となっております。問 22「あなたが働いていない理由」につきましては、「8. 高齢だから」が今回35.5%、前回29.1%となっております。「6. 健康に自信がない」は今回18.5%、前回6.9%となっております。健康面などの、年齢に伴う理由が影響しておりますので、高齢化が進んでいることと繋がっているのではないかと、事務局で話していたところでございます。続きまして問 22-1と、問 22-2につきましては、前回とほぼ変わらない比率となっておりますので、割愛します。続きまして「男女間の暴力について」でございます。問 23「①なぐる、ける、突き飛ばす」につきまして、「DVだと思う」という回答は、前回とほぼ変わりません。今回89.5%、前回87.4%と若干増加している状況でございます。ただし、「③生活費を渡さない」つまり経済的DVや、「④性行為を強要する、避妊に協力しない」の性的DVについて、「DVだと思う」という回答は、③が今回64.8%、前回45.1%となっており、同様に④につきましても、今回79.7%、前回52.8%となっており、今回大幅に上がっておりますので、DVというのが、なぐる、ける、突き飛ばすということだけではなく、それ以外の経済的など、さまざまなものもDVに含まれるという認識が高まったのではないかと考えております。「⑤人との付き合いを制限する、実家との連絡を制限する」も同様に、今回67.7%、前回35.2%と、かなり「DVだと思う」という回答が増加しているという調査結果となっております。続きまして問 24はDVを受けた側の調査結果でございますが、こちらにつきましては、前回と比較してほぼ変わっておりません。続きまして問 24-1「相談したか」、問 24-2「相談しなかった理由」という設問で、こちらにつきましてもほぼ変わりありませんでしたが、問 24-1「相談を誰にしましたか」で、「家族・親族」次に「友人」という回答が高くなっております。そして「5. だれにも話したり、相談していない」は今回46.2%、

前回 54.5%で減少しております。「相談しなかった理由」につきましては、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が17%で、前回は10.3%でした。一番多かったのが「8. 相談するほどのことではないと思った」で、今回46.1%、前回53.1%でした。そして、「5. 自分にも悪いところがあると思った」が今回30.5%、前回38.4%でした。これらの傾向から申し上げますと、DVの認知度が前回と比べ上がったことから、5と8の比率が減少したのではないかと考えております。続きまして問25「配偶者や交際相手からの暴力の防止に特に必要なことは何だと思えますか」で、「1. 法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」が今回45.4%、前回28%でございました。「2. 相談窓口の周知」は今回43.3%、前回30.0%でございました。ほかの項目についても高い比率とはなっておりますが、前回の調査結果と大体同等の比率となっております。問26につきましては、セクハラに関する質問で「あなたがされたこと」そして「あなたがしたこと」と、それぞれ分けて①から⑩まで「ある」「ない」で、回答していただく設問でございます。こちらにつきましても、比率の割合につきましては、前回と大体同等となっておりますので、割愛いたします。続きまして問26-1「それを受けたのは、だれからですか」、問26-2「それをだれかに打ち明けたり、相談しましたか。」ですが、こちらも前回とほぼ比率としては変わりませんが、問26-1の「上級生・同級生」が今回31.2%、前回17.8%と2倍になっており、上級生とか同級生からセクハラということが多くなっているということが読み取れるかと思えます。問26-2は、「7. 相談をしていない」が、今回57.4%、前回39.6%と、約4割から6割に増加しているという調査結果になっております。続きまして問27「高齢になったときの生活に不安がありますか」につきまして、「1. 不安を感じている」が今回72.6%、前回66.4%と、率としては上がっております。高齢化が原因ということも考えられますし、今現在の社会保障制度についての不安が多く感じられている方が多いのではないかと考えております。問27-1につきましては「それはどのような不安ですか」ですが、こちらも前回と比率はほぼ変わりませんが、「4. 経済的にやっていけるか」が今回75.3%、前回69.5%になっております。また「7. 寝たきりと介護が必要になったとき、満足がいくサービスが受えられるか」は、今回36.1%、前回43.3%と率としては下がっております。介護保険制度など、本市の福祉事業の充実が、こちら結果にあらわれているのではないかと考えております。続きまして問28「あなたの家庭には、高齢のために介護・介助が必要な方がいますか。」で、こちらにつきましては、前回とさほど変わっておりません。問28-1「主にだれが介護・介助をしていますか。」につきましてもさほど変わりませんが、「1. 介護されている人の妻」が今回11.3%、前回17.1%と、5ポイント減となっております。「8. 介護施設等」が今回20.3%、前回15.8%と、5ポイント上がっていることから、この10年間で施設を利用されている方が増加したのではないかと考えております。問28-2「介護に関して困っていること」につきましては、比率はさほど変わりません。問29「もし、あなたが寝たきりで介護が必要になったとしたら、主にだれに介護してもらいたいですか。」で、「1. 妻・夫」が、今回26.4%、前回37.3%でした。それに対して、「7. 介護施設等」が今回35.1%、前回27.3%と、1

と7では対照的な変化となっておりますので、こちらの結果からも施設の利用率が増加していることが読み取れます。続きまして問30「男女共同参画推進センター（ふらっとねやがわ）の機能で特にどれが重要だと思いますか。」で、「1. 男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」が今回47%、前回34.6%で上がっております。ほかの項目につきましては、前回と同等の比率となっております。問31「男女共同参画を進めるに当たって、何が必要だと思いますか。」の設問に関しまして、前回と比べまして顕著に違いが出ている項目が3つございます。「1. 男女平等の視点で法律や制度を改める」が今回33.7%、前回23.7%、「5. 採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」今回33.4%、前回21.9%と増加しております。一方「7. 高齢者の介護などの社会的サービスを向上させる」が今回27.5%、前回40.5%と減少しております。問32「経済・地域・政治などの分野で、女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。」ですが、こちらは新規項目でございます。「3. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望としない」が32.4%、「4. 長時間労働の改善が十分ではないこと」が34.8%、「6. 保育・介護・育児などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が48%、「7. 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が41.9%と、高い比率を占めております。やはり、まだまだ固定的な役割分担意識が解消できていないという問題や、働き方の環境整備が整っていないことなどが要因ではないかと考えております。

●委員長 詳細に説明していただきましたので、これらの数字について議論いただけたらと思います。

●委員 まだまだDVという認識を持ってない方がいることに驚いた部分もありますが、今回の調査で、気持ちに変化する機会となればと思いました。この結果を踏まえまして、しっかり国と市で施策を打っていただけたらと思います。男女共同参画の観点で考えると、家庭生活のところで、男性と女性に関して、分けて考えたほうがよいと思ったのですが、どうでしょうか。例えば、「食事の支度」や「片付け」、「ごみの収集」をだれがよくしているのかなど。

●事務局 今回は単純集計ということで、こういった結果となっておりますが、今後はクロス集計で、男女別の結果を御報告させていただきます。

●委員長 事務局から説明がありましたように、今後、男女別で改めて、報告していただけたらと思いますので、今回は男女あわせた数字が10年前とどう違うのかについて説明いただいたところです。1点確認ですが、新しく委員になられた方には前回の報告書等はお渡しになっているのでしょうか。

●事務局 新しく就任された委員には、印刷したものをお渡しさせていただきます。

●委員 先ほどのクロス集計の話で、「男女の平等感について」は、この10年間で教育現場の意識も恐らく変わってきていると思うので、そういうものがどう子供たちや20代30代の意識に影響しているのかを、年齢別等で細かく見ていくほうが、今までの施策がどう活かしているのか分かります。50、60代の方の回答はこの10年でそんなに変わらないので

はないでしょうか。

●委員長 前回の報告書には、性別、年齢別でデータが出ておりますので、おそらく次回はそのデータが提示されると思います。

●委員 私もクロス集計で世代別、男女別で前回とどう変わってきているか、そして新しい項目についても、きちっと分析されるということが大事だと思います。問30の「男女共同参画施策の推進について」で、「心の悩みなどの相談に応じる」のパーセンテージが高かったですが、やはり心の悩みに対して、行政で担ってほしいと思われるんだなと思う一方、「シンポジウムや自主的な活動を支援する」という回答が意外と少ないと思いました。年齢別等で見ないとわからないと思いますが、男女共同参画推進センターの担う役割もまた分析できればと思います。

●委員長 女性相談、男性相談のニーズが非常に高まっているということではあると思いますので、どういうことをやっていくのかを、今後考えていく必要があると思います。

●事務局 男女共同参画推進センターにつきましては、現在も女性の心の悩み相談をはじめ、男性の悩み相談、女性の法律相談を実施しているところです。また、男女共同参画の視点からの講座等を数多く開催しており、相談事業だけでなく、受講された女性が自立して一歩踏み出せるような講座など、さまざまな事業も展開しておりますので、今後も時代に応じた新たな男女共同参画の視点をもって、事業を進めていきたいと考えております。また、次期プランにも反映していきたいと考えております。

●委員 問25でDV防止に必要なこととして「学校における、暴力の防止や男女平等についての教育」が23.9%と出ていますが、20代や10代の子に対して、どのようにかかわっていくのがよいのかが、これからの未来をつくっていく上で非常に重要だということで、改めてその重責に身を引き締める気持ちでございます。その中で今回、「小・中・高・大学生」へのアンケートというのは、本当に意義深いことだと思っております。アンケートをすることによって意識が高まっていくというような、道筋の第一歩だと思います。それと同時に、学校内においても職員間においても、やはり50代60代と、20代との意識の違いというのがかなりございますので、こういった教育の中身について、どのように進めて行ったらよいか難しいところもございます。その中で、男女共同参画推進センターの業務の一つとして、より積極的に、出前講座等を活用していければと思っております。

●事務局 我々もさまざまな機会をとらえまして、より施策の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

●委員長 関連してですが、学校からの要望によって男女共同参画推進センターと連携した事例って何かありますか。

●事務局 学校との連携といたしましては、人権文化課が作成している啓発冊子や、平成28年度・29年度と審議会で作成した啓発冊子を市内公立小・中学校全校生徒、また全教諭にも配付するなど、教育委員会と連携しております。また、ふらっとねやがわで年に20数回講座を行っておりまして、その一枠として教育委員会とタイアップの「成人教育講座」が

あり、教育委員会と企画内容を調整しながら、毎年1回開催しております。

●委員長 実際には先生方がどのくらい来られているのか、分かりますか。

●事務局 先生の参加数は把握しておりません。また、例えばLGBTに関する講座もしておりますので、総合教育研修センターを通じて案内をさせていただくといった連携はしております。

●委員長 実際にそういうケースがあるということですので、どういう連携をすれば、より効果的であるのかというのも考えていけたらと思います。

●委員 初めて実施された事業所と学生アンケートや新規項目もクロス集計をされると思いますが、寝屋川市がどの位置にあるのか、今後どういうふうな方向性になるのか、教えていただけたらと思います。

●事務局 今後につきましては、委員長からもお話がありましたように、この意識調査の結果を踏まえまして、次期男女共同参画プランに反映して、10年先を見据えたより実効性のある内容とさせていただきたいと考えております。加えまして、今回新規に小・中・高・大、そして市内事業所にも調査をさせていただいておりますので、これまでになかった施策に繋げていけるかと考えております。

●委員長 補足ですが、新規項目と言っても、他市や国、府などでやられているものを参考にして、取り入れたものも結構あると思いますので、他市等との比較もできると思います。寝屋川市の特徴としては一体何なのか、その中でどういう施策をやっていけばよいのかを見ていくことが必要だと思いますので、国や府、他市との比較もやっていただけたらと思います。

●委員 私は今地域活動を行っているのですが、行政と市民をつなぐ立場にいるのかなと思っていますが、単純集計の結果にもあったように、地域活動の意識が薄れてきているということで、日ごろ活動していて高齢化のために会を閉ざしていかれるところが多いということも実感しています。やはり若い世代の方たちの地域活動への参加ということも、今後の男女共同参画に繋げていけるのではないかということで、若い方たちがどういうことに興味を持たれているのかも、また考えていきたいと思いました。

●委員 DVやLGBTという言葉について、みんなの認知度が高くなってきているのだなと感じました。また、私自身も生活していて、地域の関わりというか横のつながりというのがとても少ないように感じています。そういった中で起きる事件もあると思うので、そういう横のつながりというのをもう少し意識して生活して行けたらと思いました。

●委員 一番重要なのはやはり次期プランに向けて、4期と5期との違いや、次に向けて寝屋川市の特色をどうするかということを考えていく必要があると思います。

●委員長 具体的にデータをこれから見ていくところですが、10年前のデータとの比較について、検定をかけたほうがよいと思います。きちんと検定をかけた上で、前回と違うのか変わらないのかを見ていかないと、新たな施策を立てる上で、誤解があるかもしれないので、検定をかけて本当の意味で違っているのかどうかを見ていくことが必要だと思います。あ

と、このアンケート自体、次期プランを立てるためではありますが、第4期の検証をするために前回と比較するという事で、第4期プランの中での課題や施策の方向として諮る質問項目があり、その項目は違っていたのかどうかを見るという視点も必要かと思います。なので、そのことを少しやっていただきたいと思います。担当部局からみて、施策の効果があつたのかどうか明らかになるので、そのことを踏まえた上での方が次の計画をどうするか考えやすいと思いますので、手間はかかるかと思いますが、考えてみていただけないでしょうか。

●事務局 10年前の結果と今回の最終的な結果で、同じものもあれば新規のものもございいますので、そこは照らし合わせて、何がより伸びて、何が横ばいで、というのを見た上で、検証をさせていただきたいと考えております。

●委員長 それに加えて、この施策の方向に関連している項目として、意識調査の結果として、こんな数字の変化が出ているということ、担当課にお示しいただくほうが、担当課としても自らの施策の検証ができて、次期プランに向けてどうしたらよいかが出てきやすいと思うので、やっていただけたらと思います。

●事務局 毎年プランの進捗状況の調査を実施しており、各原課にはお示ししておりますので、それを実施しながら、前回と今回の調査結果も踏まえて、各原課にお示しさせていただきます。

●委員長 もう1点ですが、先ほど地域の活動のことでお話がありましたが、例えば地域の活動をもう少し推進するためという観点から見て、問14で、地域の活動ができてないと言う人たちというのは、一体どういう人たちなのか、施策を打つためのターゲットがどんな人なのかということについて見るということも、このアンケートからできると思います。これから計画をつくっていく中で、次期プランで重点的にしたいことが何かということが、結局寝屋川市の男女共同参画社会をつくっていくための一つの重点的な施策になると思います。そういう施策を打つにあたって、この調査をどう使うのかということも、少し考えていただけたらと思います。データ分析はこちらで行いますので、必要なのはどういうターゲットを見たいのかということころです。膨大なデータですので、それがないと、とても時間がかかります。なので、どういう人たちのことを知りたいというのは、事務局としても考えていただけたらと思いますし、この審議会の中でも、議論していけたらと思います。

●委員 次回の審議会では、事務局でクロス集計をどこまでされたものが、出てくるのですか。男女別や年代別など、どこまでを委託業者に依頼されているのでしょうか。

●事務局 次回審議会には、報告書形式でお渡ししたいと考えております。年齢別、男女別でのクロス集計はもちろんで、それをベースに、各項目で結果を出していきたいと思えます。項目につきましては、委託業者とも随時打ち合わせをしているところでございます。本日委員の皆様からいただいた御意見を事務局から委託業者に伝え、よりよい内容の結果をお示しできたらと考えておりますので、よろしく申し上げます。

●委員 新規項目である問32の「経済・地域・政治などの各分野で、女性のリーダーを

増やすときに障害となるものは何だと思えますか。」について、やはり、社会には出ていくけれども、男性がリーダーでその下に女性がいるという形であれば、本当の男女共同参画ではないと思うので、例えば、3の「上司・同僚・部下となる男性や顧客が、女性のリーダーを希望しないこと」が全体の3分の1ぐらいとなっていますが、どういう属性にどういうことをしていけば、女性のリーダーがふえていくのかを性別や年代別等で分析していくことが、非常に大事だと思います。

●委員長 委託業者に頼まれている中で、前回業者とお話した際には、性別年齢別のクロス集計票が出せるが、それ以降のところは別途お金がかかるということになっております。その点、前の会議でもありましたが、データをいただければこちらでやるつもりです。地域のことや女性リーダーなどの項目で一体どういう人たちがそう思っているのかということも全部出てきますので、御意見を次回以降いただけたらと思います。

●事務局 先ほども申し上げましたとおり、今後できる限りより詳細なクロス集計をして結果報告をお示しさせていただけたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

●委員長 皆さんからも意見が出ましたように、今回単純集計では、不明な点があったかと思いますが、次回、性別や年齢別の結果が出てきますので、また改めて議論いただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。事業所調査については、寝屋川市で初めて行ったということなので、他市の状況と比較して、まとめていただければと思います。学生調査も同様に、データ等を提示していただいて、議論できたらと思います。それでは、次第4その他になりますが、事務局から何かございますか。

●事務局 まず、1点目ですが、第4回男女共同参画審議会は、令和2年2月17日から2月28日で開催したいと考えておりますので、12月6日までに御解答ください。

次に2点目につきましては、パートナーシップ宣誓証明制度についてでございます。11月20日(水)に開催されました「第3回 大阪府市長会 人権部会 人権部長会議」におきまして、大阪府から「大阪府パートナーシップ宣誓証明制度」についての説明がございました。

内容につきましては、大阪府が、本年10月30日に施行しました「大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例」に基づき、府内全域で、更なる環境整備を図ることを目的に「パートナーシップ宣誓証明制度」の導入を、現在、検討しているというものでございます。これを受け、今後は、本市といたしましても、大阪府と連携を図りながら、「パートナーシップ制度」に関する事務事業に協力し、性的指向と性自認の多様性に関する理解の促進に向けた取組を進めていく予定でございます。

●委員長 パートナーシップ制度についてということですが、これは寝屋川市としてもパートナーシップ制度を取り入れることを検討するということでしょうか。

●事務局 大阪府といたしまして、府をあげた府内全域で取り組んでいくということでございますので、本市としましても全面的に協力させていただくということでございます。地域限定的な対応ではなく、大阪府民が対象になってまいりますので、大阪府と協力しながら

らLGBTパートナーシップ制度を発信していきたいと考えております。

●委員長　それでは、そのことについて、審議会でもまた、話題として出てくると考えてよろしいでしょうか。

●事務局　新しい情報が入りましたら、随時情報提供させていただきますので、よろしくお願いたします。

●委員長　それでは、本日の会議はこれもちまして閉会とさせていただきます。皆様ありがとうございました。